

ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)

～住んで楽しい米子市をめざして～

米子のまちで、仕事に遊びに、人生をたっぷり楽しんでもらいたい！
そのためには、市民のみなさんのワーク・ライフ・バランス*が大切
になってきます。

※働くすべての人々が「仕事」と、育児、介護、趣味、学習、休養、地域活動といっ
た「仕事以外の生活」と調和をとり、その両方を充実させる働き方・生き方

そこで、広報よなごでは、7月から10月までの4回にわたって米子市内のさまざまなワーク・ライフ・
バランスの取組みについて紹介しています。

■問合せ 男女共同参画推進課 (☎23-5419、☎23-5392)



ネギポの

それ、いいがん!!

第2回

第2回は、米子高島屋におじやま
して、長谷川副店長さん、内山係長
さん、高橋さんにお話を伺いました。
—— 米子高島屋さんの業務内容につ
いて教えてください。

長谷川さん 米子高島屋は昭和39年
4月1日に開店し54年間、長く米子
に地域密着型の企業として生業をし
てきました。90年代バブル崩壊とと
もに近年は、やはり非常に経営が厳
しくなっています。そういった中で
地元雇用をきちんとして生業を立て
ることを一番の目標としてやってき
ました。地元貢献といってもそう
大きなことはやっていませんが、米
子市内でも何か所か移動販売をして
いまして、ご年配の方々でなかなか
買い物に出られない人たちに喜んで
いただいております。本通り商店街
の中の高齢者住宅「まちなか」にも
移動販売しているんですよ。今後も
できるだけ米子市に貢献したいです
ね。中心市街地が少し衰退している
ところもあるようですが、昨年12月
末には東館を米子市に寄付し、これ
を一つのきっかけにしてもう一度中
心市街地を商店街と一緒に盛
り上げていきたいと思っています。



「いろいろな制度をつくってワーク・ライフ・
バランスを図ってます」と語る長谷川さん

—— 米子高島屋さんの、ワーク・ラ
イフ・バランスの取組みについてお
聞かせください。

長谷川さん うち、2010年く
らいから人事制度の中で取り組んで
きています。1つ紹介しますと、ス
クールイベント休暇、学校のイベン
トに参加してもらうための休暇があ
ります。学校に通っている子の親、
また孫のいる祖父母に有休と別に2
日あります。それから、ワーク・ラ
イフ・バランス休暇もあります。

—— そのものずばりの休暇ですね。
どんなときに取れるんですか？

高橋さん プライベートで大切な用
事するときですかね。自分の親とのイ
ベントですとか。

—— 何でもいいんですか？

高橋さん そうですね。お任せなん
です。

—— 言葉自体が身近なものになって
いくといいなと思ってるので、ワー
ク・ライフ・バランス休暇という
ストレートな名前が、とってもちい
なと思います。
高橋さん 取得しやすいですよ。



「育児勤務を利用して子育てと
両立を図ってます」と語る高橋さん

長谷川さん これも昨年全員が取っ
ています。昔は仕事仕事でしたが、
今の人はまず自分の趣味とか生活を
充実させたいとアンケートなども
出ています。それに応えないと優
秀な人材に来てもらえないですから
ね。こういった企業側の思いもあつ
てワーク・ライフ・バランスは大き
な柱です。今後は個々で働き方を考
えなければいけない、例えば思い切っ
て業務をやめる部分とかね。そうやっ
て時間を作っていく。生産性を高め
てワーク・ライフ・バランスをさら
に充実させていくイメージです。

—— 今仕事をしておられる中で、仕
事とそれ以外の生活のバランスにつ
いて、日々感じておられるようにな

とがあればお聞かせください。

高橋さん 育児勤務を取得させていただいているんですけど、余裕をもって保育園にお迎えに行つて、それから帰って家事をしてというようなことができるので、とても助かっています。例えば、子どもが突然熱を出したとかで保育園から連絡があったときに、職場の中で（制度が）浸透しているので相談しやすいですね。いきなり休みを取らせてくださいというところもあるんですけど、皆さん休んでいいよみたいな感じで、すごく働きやすい環境を作ってもらっていると感じます。

内山さん 今、育児勤務の人も結構おられるんですね。同じような年代の方がそれぞれ同じような悩みを抱えて、小さなお子さんを育てながら働いている環境で、共有できたり相談できたりという環境もあるので、休みの取り方にも理解をいただきやすいというのがありますね。

——内山さんはいかがですか？

内山さん 15年ぐらい前になるんですが、1年間育児休暇を取った後、復帰させてもらいました。育児勤務にも何通りかありまして、終業が一番短くて3時半くらいまでかな、4時半とかいろいろパターンで、こちらで選択できるんです。最初はすごく不安があったので、短い時間で

働かせていただきました。それをやりながらもうちょっと長く働けないかなと、3年4年と働いた後で、時間を長く変更しながらフルタイムに戻していききました。やはりいきなりフルタイムではなく、段階的に時間をどんどん延長していったのが私には合っていて、すごくよかったですね。私はこの制度を子どもが小学校3年にあがるまで最大限使わせてもらってフル勤務に戻つてるので、育児勤務の制度とそれを取りやすい環境のおかげで、こうやってずっと勤務がつづけていられるのかなと思います。

——取りやすい職場というのが大きいと思います。制度があっても取れないでしょうし、皆さんがそういう意識でおられる、さつきもおっしゃったように浸透している。

内山さん 今が一番いい環境だと思います。私が育児勤務の時は何となく後ろめたさもあったんですけど、今はもうそんな感じではなく、逆に



祭仕様のローズちゃんとネギポ

「早く帰らない、時間だよ。」というようにない雰囲気ができていると思います。

——副店長さんのワーク・ライフ・バランスはいかがですか？

長谷川さん あまり実感がありませんけど、仕事と家庭でいうと、今年ちょうど子どもは大学1年なんですけど、小さいうちは、運動会とか少しでも出てあげないといけないかな。休みやすい雰囲気といいますが、店自体がそういったことで、みんなが自分の都合とか家庭のために何か、男は役に立たないって言われるんですけど、そういった小さいことでもできたので、僕より子どもたちが喜んでくれました。



「休暇が取りやすい雰囲気、周囲のサポートもいい職場です」とネギポ（右）に語る高橋さん（左）と内山さん（中央）

——最後になりましたけど、住んで楽しいまちになるために米子市に望むことを教えてください。

長谷川さん 雇用の創出を米子市の未来のビジョンとしてやってほしいですね。子どもが大きくなって地元からみんな出て行ってしまふ。大学を卒業して米子に帰って来ても働く場所がない。企業誘致も含めてそのあたりを取り組んでほしいですね。高橋さん 個人的なことになりましたけど、やはり保育園の数が足りていないと感じます。自分の子どもも二次募集で受かったんですけど、本来だと自分の望んだところに入れるのが一番の理想だと思います。

内山さん 弓ヶ浜公園に子どもさんを連れて行った人が、小学生や中学生の遠足と重なって遊べなかったと聞きました。うちの子も高校生なんですけど遠足が湊山公園だったんですよ。高校生とかと一緒に遊べないかとお子さんは遊べないのでないかと思うので、ぜひ外で遊べることをもっとつくってほしいですね。

働きやすい環境を作ること、職場復帰のハードルが下がっていったね。

